

木質資源の活用を担う木材チップ製造工場が稼働!



式典であいさつする
古屋理事長

やまなしウッドチップ協同組合(古屋武仁理事長)では3月26日に、山梨市大野に建設していた「木材チップ製造工場」の落成式を行った。

当組合は木材チップの製造や加工等を行う事業者により平

成26年2月に設立され、山梨県の「森林整備加速化・林業再生事業補助金」により、工場の建設を進めていた。

これまで組合員が製造・加工していた木材チップの主な用途は製紙原料であったが、電子化によるペーパーレス化が進展する中で需要の先細りが懸

念されたことから、新たな使い道としてバイオマス発電用燃料の木材チップを組合で製造することになり、今回の新工場建設を決断した。

生物由来の再生可能エネルギーである木材バイオマス燃料は、間伐材や木材等の木質資源をチップ化し燃料として利用することで、二酸化炭素が新たに発生しないため環境への負荷を軽減することが期待されている。

式典終了後、実際に稼働している製造工場を列席者が見学し、チップの原料となる原木が重機で搬入され、工場内の機械によって樹皮を剥がしチップ化される一連の工程を見て回った。当工場は約745㎡の鉄骨造平屋建てで、現在は1日約160tの木材チップが製造されている。

古屋理事長は落成式のあいさつでバイオマス発電用燃料の木材チップの有用性に触れ、「地球



重機により原木が工場内に搬入される

温暖化や東日本大震災などを契機に、クリーンエネルギーの需要が急速に高まっている。間伐材、林地残材等の木質資源を有効活用することは、林業及び森林の再生や山梨県の地域活性化の一助となり、循環型社会の構築にも寄与できると考えている。」と木材チップの将来性に期待を込めた。